



MieTLO

MIE TECHNOLOGY LICENSING ORGANIZATION

三重TLO技術情報クラブ会報

No.2 2002年 12月

CONTENTS

三重大学における知的資源の社会還元	1	TLO活動報告	5
研究室紹介	2	三重TLO会員名簿	6
会員企業紹介	3	特許情報案内	7
フラットパネルディスプレイ (FPD)の技術セミナーの開催	4	催し物行事案内	8

三重大学における知的資源の社会還元

— 三重TLO設立の経緯 —

三重大学副学長 菅原 庸

三重大学において技術移転機関を設立し、知的資源を社会に還元することは、矢谷隆一学長の就任以来の目標のひとつであった。

大学の基本的役割としての教育・研究は、これまでも社会との連携のもとに進められてきた。教育分野における社会貢献、研究分野における社会貢献は、学位授与・大学評価機構による大学評価の課題としても取り上げられており、大学の社会貢献・地域貢献機能は、今後一層重要となってくるものと考えられる。

三重大学における企業等地域社会との連携は、共同研究、技術相談、技術研修会などを通して、地域共同研究センターがその役割を担ってきており、三重大学の窓口として位置づけられている。

原則個人帰属の発明の特許化・技術移転の機能は、国立大学とは別の機関で実施せざるを得ない現状であるが、三重大学では地域共同研究センターとの協働による技術移転機関の方向性を出来るかぎり探った。

この間、三重大学21世紀委員会研究部会では、技術移転機関設立の必要性を検討し、先行の山口TLOをそのモデルとした。このため、山口TLOの状況を伺うため、同大学の村田秀一地域共同研究センター長を三重大学に招き講演会を開催するとともに、当時、地域共同研究センター長であった妹尾允史教授(現三重TLO社長)と、同大学へ視察調査を実施した。

同時に、地域共同研究センターの客員教授として、弁理士や企業OBの方々を迎え、さらに、産学連携コーディネータ(非常勤)を採用し、常勤教職員等の協力を得て、TLO検討体制がスタートすることとなった。

平成12年度には、三重大学リエゾンTLO研究会を発足させ、「三重大学におけるTLO活動の推進に関する基礎的研究」がスタートし、調査検討を推進した。

この間、三重県や地元銀行との情報交換を重ね、平成13年には、地域共同研究センター内に「TLO推進ワーキンググループ会議」を発足させ、本格的作業・検討を進め、TLO設立に向けて「技術移転機関設立準備委員会」を学内委員会として設置し、検討体制を

整備した。

第1回技術移転機関設立準備委員会(7月31日)の翌日に文部科学省・経済産業省(以下両省)との協議を開始し、両省ともに「三重TLO」の設立に前向きに対応していただいた。8～9月にはTLO設立に関する学内説明会(医学部・工学部・生物資源学部・教育・人文学部)を開催した。TLO設立に向けて解決すべき課題が山積みであったが、地域共同研究センターの教職員・客員教授・コーディネーター等が協力してワーキンググループによる各種作業、具体的な検討がほぼ毎週行われた。

研究担当の副学長が「TLO推進ワーキンググループ会議」および「技術移転機関設立準備委員会」の議長として、副センター長が実務まとめ役として、両省との協議、特許庁・関連機関等の情報収集にあたり、何回かの協議で設立認可の見通しが得られた。

これにより、三重大学全教官に出資の募集を行い、同時に、三重県内の高等教育機関に妹尾現社長とともに向いて、TLOの説明と機関参加協力の依頼を行った。

TLOの設立には、準備段階から三重県知事をはじめ、三重県各機関及び(財)三重県産業支援センターの多大な協力を得、さらには、津市や地元企業には特別会員として協力していただいた。

平成14年2月に会社設立の登記、両省に承認TLOの申請手続きを行い、4月に承認TLOとして認可された。

会員企業の募集には、地域共同研究センターの客員教授・産学連携コーディネーター・学内教官等が精力的にあたり、全員の努力により、企業会員数は最終的に120余社となった。

三重TLOが両省と設立について協議をはじめて約6ヶ月の短期間で設立の目処を得ることができたのは、地域共同研究センターの教職員をはじめ、客員教授・産学連携コーディネーター及び生活共同組合職員など関連教職員による設立への意欲と努力の賜であり、感謝に絶えない。

三重TLOの設立は終着点ではなく、スタートポイントであり、三重TLOが評価されるのは設立後の活動である。今後の活動が、一層期待される。

◆ 研究室紹介 ◆

三重大学生物資源学部資源循環学科
循環生物学講座生物情報工学研究分野

教授 亀岡 孝治 助教授 橋本 篤

農産物の追熟代謝に関わる速度論的研究と植物細胞・大腸菌も用いた実験も併せて行っている。また、フィールド実験では、さまざまな生物情報センシングに、インターネット技術などを駆使して挑戦している。さらに、農産物・食品中の水の状態計測、熱物性計測に加え、最近は特に FT-IR (近赤外からテラヘルツまで)、紫外・可視分光スペクトルを用いた成分・構造計測と味覚を考慮した食品感性工学的アプローチを行っている。

主な研究テーマは以下の通りである。

- (1) 一次・二次代謝に関わる速度論的研究
 - (a) 植物細胞の糖取り込み機構の解明
 - (d) イオン解離成分の赤外分光解析
 - (e) 細胞・農産物の代謝抑制に関する応用研究
- (2) 農産物生産現場での生物情報センシング
 - (a) ブドウ (安芸クイーン) の成長計測
 - (b) トマト植物体中の栄養計測
 - (d) ニンジンの色彩計測によるカロテンの定量
 - (e) イチゴの育種のための色彩・形状情報の解析

(3) 農産物・食品に関わる研究

- (a) 食品の赤外線乾燥に関する基礎的研究
- (d) 糖類の中赤外・THz スペクトルの応用研究
- (e) 冷却 CCD カメラによる分光解析システム
- (f) インターネット対応型生物情報解析システム
- (g) コーヒー・米の成分と味覚の感性工学的解析

【主な設備・装置紹介】

FT-IR および各種サンプリングアクセサリ (光音響、耐圧など)、蛍光 X 線分析装置、色彩・形状計測システム、冷却 CCD カメラ分光システム、実験用通風乾燥装置、実験用赤外線乾燥装置、実験用農産物貯蔵システム、熱物性測定装置など。



トマト果実の蛍光 X 線分光解析を行い、陽イオンの分布を計測しているところ

三重大学工学部

分子素材工学科分析環境化学研究室

教授 太田清久・助手 金子 聡・助手 勝又英之
三重大学環境保全センター

助手 鈴木 透

研究課題

- ・ 外因性内分泌攪乱化学物質、有害有機ハロゲン化合物 (ダイオキシン、農薬等) の分析法及びその簡便な解毒手法の開発
- ・ 金属蒸気分離分析法 (Sequential Metal Vapor Elution Analysis) の開発応用研究
- ・ 超微量金属分析法の開発 (固形試料の直接分析法の創案及び超微量金属濃縮分析法の開発)
- ・ 一般・産業廃棄物の再資源化
- ・ 生活・産業排水の安価・簡便浄化法の開発
- ・ 炭酸ガスの燃料・原料物質への変換

ダイオキシンや農薬などの外因性内分泌攪乱化学物質の生体への影響が、近年ますます懸念されており、最新の分析装置を用いて、その簡便な分

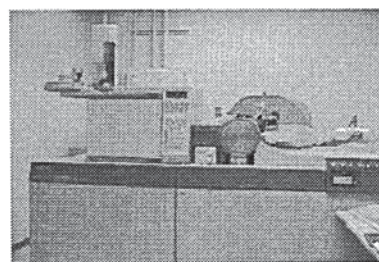
析法の開発や新規な解毒手法の開発を行っている。これ以外にも、超微量金属元素の分析法や生活・産業排水の浄化など、環境負荷低減技術に関連した様々な研究課題に取り組んでいる。

技術指導

- ・ 水質汚染・汚濁の低減化システムの構築
- ・ ダイオキシン測定技術と対策
- ・ 農薬測定とその解毒技術

設備・備品

- ・ ダイオキシン類分析専用高分解能ガスクロマトグラフ/質量分析装置
- ・ 黒鉛炉原子吸光分光装置
- ・ 液体クロマトグラフ装置



ダイオキシン分析器

◆ 会員企業紹介 ◆

「伊藤製油株式会社」

弊社の歴史は古く、創業は菜種油の製造販売を始めた1872年に遡りますが、昭和21年に株式会社として再出発し今年で56周年を迎えました。昨年、55周年の節目の年には研究所を中心とした新本社屋が完成しました。株式会社として再出発以来、ヒマシ油（ヒマという植物の種子から得られる油）及び各種の二次誘導体を製造販売し業界トップの企業になりました。当社の高度な技術で開発したポリウレタンは、電気洗濯機や自動皿洗い機などに使用する電気絶縁封止材として、また浄水器や医療機器などには安全性の高い樹脂として評価され使用されています。また船舶、橋梁などに使用される超厚膜型重防食塗料用のタレ防止剤（塗料添加剤）は、ハイテクノロジーとして顧客からご好評を得ています。

現在、世界的に景気が冷え込んでいる中、日本は経済や産業構造の制度疲労に直面し、戦後史にも類をみない未曾有の事態に陥っています。このように大変厳しい環境の中で、弊社としても生き残りを賭けて新製品の開発に取り組んで行かなければなりません。

昨年完成した新研究所は、作業環境の改善はもちろんのこと高価な機器分析装置を整備し、今まで以上に開発スピードを上げています。

創業以来、一貫して天然素材である植物油を活かし研究を進めていますが、ライフサイエンスや環境保全分野、その他にはナノテクノロジー、情報通信分野を開発のターゲットにしています。

これらの分野の開発には基礎研究が大切であると分かっているが、現在弊社の置かれている状況を考えますと大変難しいため、産学官の連携すなわち大学等から発信される新しい技術を活用し、応用開発して行くことが一番重要であると考えています。今までも九州大学とヒマシ粕の無毒化の共同研究を行い、三重大学と制ガン剤の共同研究を進めてきましたが、今後も産学官の連携を深めて行く予定です。

今年、三重TLOに入会させて頂きましたが、大学や公的機関を活用し、世界でもトップレベルと言える製品を開発したいと考えていますので、今後の三重TLOの支援に期待しております。



橋本電子工業株式会社

弊社では今7つの研究開発テーマを立ち上げております。そのテーマを次に示します。

- (1) 産学官による共同開発（3テーマ）
 - ①人工筋肉
 - ②無痛注射器
 - ③歩行補助装置
- (2) 異業種交流による共同開発（4テーマ）
 - ①低周波治療器用電極
 - ②生ごみ処理機
 - ③アナログ電話回線デジタル化中継機
 - ④LAN 端末 I/O コントローラ

(1) 項のテーマは基礎的な部分の比率が高く、商品化までに少し時間のかかるテーマですが、(2) 項のテーマについては、ほぼその開発が終わっております。これから販売に注力するところに来ております。しかしまだまだ改善・改良の余地は多分に残っており、世の中に受け入れられるようになるには、あと二つ三つの壁を乗り越える必要があると思っております。

ところで、このところ地方の時代の基盤を支えるのは地場産業であると言われます。弊社は地場産業の一つになりたいと必死で新商品開発に取り組んでおります。中堅中小企業が多い地場産業や地場産業を目指している中小企業にとって、人・物・金・

情報が大企業に比べ圧倒的に不足している中で、これらを補う一つの方策が産学官や異業種交流による共同開発だと認識しております。

さらに今後は産学官と異業種交流が合体すれば、もっと大きな成果が期待できると考えております。弊社は三重県中小企業家同友会（約470社が加盟）にも参画しており、今回その中の有志企業約40社が集まり、共同受注・共同開発グループ『ビタミンみえ』を立ち上げることになりました。全員がよりよい三重の地場産業作りを、明日を担う若者が明日を信じ夢を抱ける地域作りを目指しております。

(株)三重ティーエルオーの力をお借りして、新しい市場を開拓し、新しい地場産業を興し、次代を担う若者が素晴らしい夢を抱ける三重になることを、強く強く念じております。

尚弊社の企業案内につきましては、ホームページ <http://www.hashimoto-inc.co.jp/> をご高覧いただければ幸甚です。



フラットパネルディスプレイ (FPD) の技術セミナーの開催

電子産業分野においては半導体 IC につづき、FPD 技術が今後の日本の産業経済を支えるキーテクノロジーの一つと目され、経済発展を続ける韓国・台湾との激しい産業競争の中で、国内では産学を挙げて精力的に技術開発が推進されている。

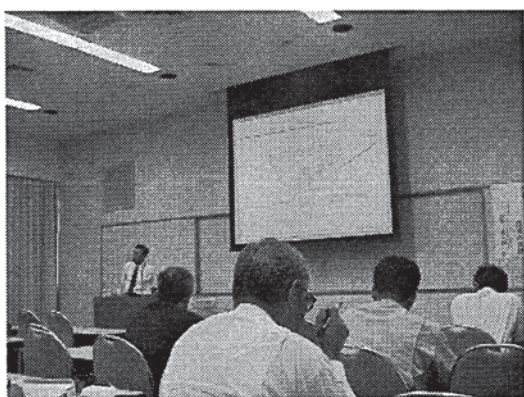
このような状況を背景に今般、学会及び産業界から専門家や当事者に来訪していただき、それぞれ液晶、有機ELディスプレイ技術の実状に関するセミナーを開催して、皆様の参考に供することにした。以下その概要の報告である。

(1) 液晶ディスプレイ技術セミナー

日時：8月2日

場所：三重大学三翠ホール

まず、三重大学(工)物理工学科山下教授が、「液晶とその基本的性質」の題で、基礎原理を身近な事例をもとに分りやすく講演された。続いてシャープ(株)AVC ディスプレイ研究所山田第2研究部長が「液晶ディスプレイ技術の実際」の題で、簡単な実験を行いながら実用化の機構を幅広く講演された。シャープ社が三重県で工場を新・増設推進中ということもあり、約140名が聴講され、その後の交流会も約50名が参加して盛大に情報交換などが行われた。



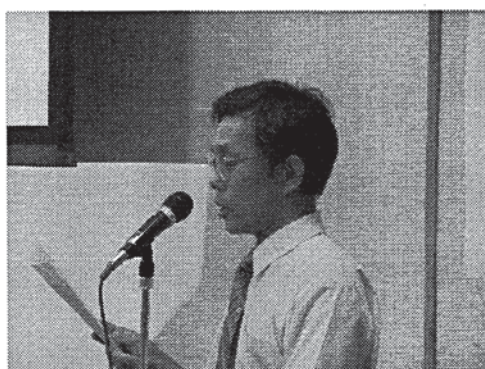
(2) 有機EL技術セミナー

日時：10月18日

場所：工学部28番教室

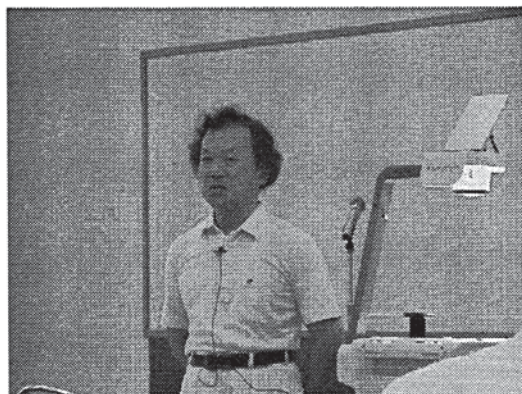
まず、九州大学総合理工学研究院筒井教授が、「有機ELの研究状況と今後の展開」の題で、有

機ELの研究開発の歴史と先端研究の課題・問題点などをご自身の研究の歩みに沿って興味深く講演された。続いて三洋電機(株)有機EL事業化プロジェクト豆野サブリーダーが「有機EL技術の事業化動向について」の題で、現状の技術の実用化状況や将来への展望について具体例をもって解説された。約90名が聴講され、その後の交流会も30名余りが参加され格好の情報交換の場となった。



また、いずれのセミナーも三重TLOを中心に、東海ものづくり創生協議会、ディスプレイ産業研究会、(財)三重県産業支援センターの共催で開催され、三重県や中部経済産業局から支援をいただいた。

時節柄、話題になる内容であったので予想以上の多くの人の参加を得られ、またアンケートの結果においても、一部高度な説明で分かりづらかったとのご指摘などがあったものの、内容・運営面では概ねかなり良好とのご評価をいただき、所期の目的はほぼ達せられたものと考えている。



TLO活動報告

「特許流通フェア中部2002」に出展

日時：平成14年10月16日(水)～18日(金)
場所：名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)

新規事業の創出や中小・中堅企業の技術力の向上を図るため、特許の提供または導入を希望する企業、大学、研究機関などが直接交流する出会いの場として開催された「特許流通フェア中部2002」に出展した。開放特許に対する関心、企業、大学等の研究成果の活用に対する期待の高まりを反映し、120以上の企業、大学、研究機関からの出展があり、他大学、他地区TLOとともに三重ティーエルオーも初めて出展し、三重大学の研究シーズを紹介した。

今回は特許庁長官 太田信一郎氏による講演「我が国の知的財産戦略について」や同時開催の「フロンティア21エレクトロニクスショー2002」及び「産学交流テクノフロンティア2002」との共催もあり館内は多くの来場者で大いに賑わった。

メディカルバレーin上野ーみえ薬事産業セミナー

日時：2002年11月22日(金)
場所：上野フレックスホテル
主催：三重県、上野市、三重大学
後援：(株)三重ティーエルオー、上野新都市企業誘致促進協議会

三重大学、三重県、上野市が主催する「メディカルバレーin上野ーみえ薬事産業」11月22日、上野フレックスホテルで開催された。

メディカルバレーは三重県が構想する産業政策の一つであるが、今回はその一環として、厚生労働省医政局経済課 鹿沼課長補佐を講師に同省の施策についてのご講演と初の大学発ベンチャーで知られるアンジェスMG株式会社監査役で三重大学医学部産学連携医学研究推進機構マネジメント・プロフェッサー 菱田氏 等による下記の講演があった。

講演：
厚生労働省医政局経済課課長補佐 鹿沼 均
『医薬品産業ビジョンと薬事産業の将来展開』

講演：
三重大学医学部産学連携医学研究推進機構マネジメント・プロフェッサー、
アンジェスMG株式会社監査役 菱田 忠士
『バイオメディカル分野における大学発ベンチャー』
レセプション(交流会)

会場：上野フレックスホテル 2F オークホール

産学官等連携施策等説明会
(地域共同研究センター主催)

日時：平成14年11月26日(火)
13:30～

場所：工学部大会議室
講師：経済産業省中部経済産業局産業企画部
産業技術課長 星野 章氏
同企業育成総合支援室室長補佐
新規事業課課長補佐 佐々木昌子氏

三重TLO第2回交流会開催

11月26日午後、第2回三重TLO交流会が三重大学講堂小ホールにおいて開催された。会員および株主(教官)あわせて100人以上が集い、講演および交流会が3時間にわたって活発に行われた。

齊藤正美 鈴鹿高専教授による「鈴鹿地区における産学官連携活動」の講演では、鈴鹿商工会議所、地域企業、高専・大学が数年前から取り組んでいる活動の事例が紹介された。中でも「芍薬・牡丹」の研究から展開する新事業の創出、さらにはそれを基盤にした豊かな生活空間作りまでを目標にした研究会活動が感銘を与えた。また、三重TLOに対する大いなる期待を述べられた。

交流会には三重大学学長、工学部長も出席し、大学教官約20名が各自の研究内容を紹介した後、交流・懇談に入った。今回は、株主(教官)と会員(企業)のより緊密な連携をめざして開催したもので、これを契機にして共同研究や技術連携が生まれてくることを期待したい。

日時：平成14年11月26日(火)
15:20～

場所：講堂小ホール
講演：
「鈴鹿地区における産学連携活動について」
講師：鈴鹿高等工業専門学校
教授 齊藤 正美氏
交流・懇談会

TLOによる会社訪問を開始しました

三重TLOでは、学内教官を対象に、会員企業の見学訪問を始めました。

下記は、現在までの訪問先です。この企画は今後も続ける予定ですので、御興味のある方は三重TLO室まで、お問い合わせ下さい。

訪問企業
三重電子(明和町)、橋本電子(松阪市)、
中川製作所(安濃町)、松阪鉄工所(津市)
今後の訪問予定
伊藤製油(四日市市)、赤塚植物園(津市)

三重TLO会員名簿

(平成14年11月現在)

アグリ・食品関連

株式会社 青山食品サービス
株式会社 赤塚植物園
株式会社 赤福
井村屋製菓 株式会社
株式会社 岩出菌学研究所
株式会社 おやつカンパニー
尾鷲物産 株式会社
株式会社 光和マシナリーサービス
株式会社 芝共
株式会社 ジャパンビバレッジ
太陽化学 株式会社
名古屋製酪 株式会社
ノーブル・バイオ研究所
株式会社 ビーボコーポレーション
株式会社 マスヤ
茂利製油 株式会社
山忠食品 株式会社

医薬品・医療機器

イシダファーマシー 株式会社
小野薬品 株式会社
カネハツ食品 株式会社
ジョンソン・エンド・ジョンソン 株式会社
武田シエリング・ブ라우アニマルス 株式会社
中外製薬 株式会社
株式会社 中部メディカル
中外医薬生産 株式会社
株式会社 東海メディカルプロ
日本製薬 株式会社
ポストンサイエンティフィックジャパン 株式会社
松浦薬業 株式会社
御木本製薬 株式会社

化学・環境関連

株式会社 アクトリサーチ
有限会社 アスク鳥羽
株式会社 アゼックス
有限会社 IGA再資源化事業研究所
株式会社 イットモ
伊藤製油 株式会社
有限会社 ウイドウ
株式会社 エステム三重
エムアンドエス研究開発 株式会社
株式会社 岡ポリエチレン製作所
オキツモ 株式会社
クレハエラストマー 株式会社
有限会社 コウシヤ
江南化工 株式会社
シーエーシーズ 株式会社
信越化学工業 株式会社
株式会社 東海テクノ
株式会社 東洋紡総合研究所
日洗科学 株式会社
ニツタ 株式会社

日本ケミカル工業 株式会社
株式会社 フルハシ環境総合研究所
株式会社 ヘルストロンEM&C事業部
本荘ケミカル 株式会社
財団法人 三重県環境保全事業団
三重中央開発 株式会社
水谷ペイント 株式会社
株式会社 水ミネラル研究所
三菱化学 株式会社
株式会社 ミルボン
山清産業 株式会社
四日市合成 株式会社
株式会社 ロンビック

機械・金属製品

株式会社 アサヒダイテック
宇野重工 株式会社
株式会社 エー・ジェー・シー
カヤバ工業 株式会社
株式会社 岐阜浄水機工
株式会社 光彩工芸
株式会社 小林機械製作所
株式会社 スエヒロEPM
大洋産業 株式会社
株式会社 タカキタ
株式会社 中部コーポレーション
株式会社 東邦鋼機製作所
株式会社 トーエー
株式会社 中川製作所
光精工 株式会社
扶桑工機 株式会社
株式会社 松井鉄工所
株式会社 松阪鉄工所
矢口モーターズ
株式会社 安永
ヤマザキマザック 株式会社
株式会社 吉見製作所

電気機器・通信

銀河電機 株式会社
コスモ電子 株式会社
株式会社 サタス
下村電機工業 株式会社
神鋼電機 株式会社
新神戸電気 株式会社 名張研究所
住友電装 株式会社
株式会社 ZTV
橋本電子工業 株式会社
富士電機 株式会社 三重工場
有限会社 ホープ工業
三重電子 株式会社
三重リコー 株式会社

建設・窯業関係

株式会社 飯田建設

伊勢湾フェンス 株式会社
株式会社 オオコーチ
株式会社 尾鍋組
株式会社 川島工業
川本設計工務
株式会社 建和
コマツ三重 株式会社
大成建設 株式会社
チヨダウーテ 株式会社
柘植コンクリート工業 株式会社
ツルイギケン技術者グループ
テック大洋工業 株式会社
株式会社 長江
日本土建 株式会社
ヒノキブン 株式会社
平和コンクリート工業 株式会社
株式会社 三重電気システム
株式会社 三鈴エリー
有限会社 ヤマモト

その他製造・サービス

伊藤産業 株式会社
上野ガス 株式会社
オージーエスケー 株式会社
株式会社 オートセンターモリ
有限会社 片山メリヤス
株式会社 きもと
京友システック 株式会社
株式会社 ゴーリキ
三恵技研工業 株式会社 安濃工場
株式会社 ジャパンテクノメイト
株式会社 日本開発研究所
日立ソフトウェアエンジニアリング 株式会社
株式会社 百五経済研究所
株式会社 フルバック
マルトー 株式会社
株式会社 三重銀総合研究所
三重県生コンクリート工業組合
株式会社 三重電子計算センター
株式会社 ミツ星

地方自治体等

三重県
津市
三重県産業支援センター

個人・ベンチャー会員

一名

三重TLO特許情報案内

三重TLOからの出願済み特許は、11月22日現在で合計9件となりました。一部の特許については、秘密保持契約を締結して特許の明細書の開示を行っております。皆様におかれましては、これらの技術シーズを新製品開発等に有効活用頂きますよう、宜しくお願い致します。

No 分類	出願番号 (優先開示期間)	発明者(所属) 「名称」	概要・特長
1 建築	2002-265367 (H15. 1. 10)	富岡義人(三重大・工) 「トラス状成形金属板の嵌合組立方法およびその立体構造金属板」	金属板を立体トラス状にプレスし、これを平面金属板と嵌合によって結合した安価かつ応用性の高い壁・天井用などの建設躯体材。
2 情報 処理	2002-268801 (H15. 1. 10)	児玉哲司、古橋武人 (三重大・工) 「超音波を用いた距離測定方法および距離測定装置」	2進周波数シフトキーイング方式で生成した超音波パルス共振型送波器から放射し、1装置で多点距離測定を可能とした安価な超音波距離測定方法・装置。
3 情報 処理	2002-313544 (H15. 2. 28)	古橋武人、井上武士、前田宏、高羽実 (三重大・工) 「看護師勤務表作成支援ソフトウェア等」	1ヶ月程度の長期スケジュールを、婦長の負担を少なく、且つ全員が満足できる平等性でスケジューリングする勤務表作成支援方法。
4 情報 処理	2002-289472 (H15. 1. 10)	近藤利夫(三重大・工) 「低遅延映像符号化および復号化装置」	映像通信において、符号化から復号化までの遅延時間を半減するため、1ピクチャにおいて符号化順に従わない分散送出とその復号再生を可能とした。
5 環境 工ネ ルギ	2002-287031 (H15. 1. 10)	清水幸丸、鎌田泰成 (三重大・工) 「バイオマス変換式ガス発生装置」	ガス発生炉で、燃料であるおが屑供給の詰まりを防止するための特殊形状の投入パイプと送り装置および生成ガス漏洩防止装置。
6 環境 工ネ ルギ	2002-297080 (H15. 2. 28)	清水幸丸、鎌田泰成 (三重大・工) 「排出機構を備えたバイオマス変換式ガス発生装置」	同上装置における、自動排出装置の設置。
7 ナノ テク	2002-289706 (H15. 1. 10)	齋藤弥八、畑 浩一 (三重大・工) 「電界電子放出型スイッチング素子」	カーボンナノチューブの特性を活用し、先端部の界面近傍に生ずる電界変化に応じて分子状ガスを吸着・脱離させ、電流変化を生じさせる。
8 バ イ オ	2002-115737 優先開示期間終了	吉村哲郎(三重大・工)、宮崎照雄 (三重大・生物) 「水棲動物に対する有用物質含有リポソームの作製法と投与法」	病原体、タンパク質、核酸等をリポソームに含有させ、魚類等の腸管から吸収されやすい形とした飼料により、経口法で経済的にウイルス耐性を付与する。
9 バ イ オ	2002-310674 (H15. 2. 28)	粟冠和郎、大宮邦雄 (三重大・生物資源) 「耐熱性ペクチン酸リアーゼ」	クロストリディウム菌由来のペクチン酸リアーゼは、従来の酵素に比較し強力な分解活性を示し、且つ耐熱性に優れており、洗剤、ペクチン含有廃水処理、食品工業等への応用が期待される。

註(1) 以上の出願特許について詳細開示を希望される場合は、秘密保持契約を締結の上有料(2万円/件; 消費税別)にて、詳細開示いたします。

(2) さらに次のステップとして、実施権契約、オプション契約または共同研究のご検討をお願い致します。

お問い合わせ等は、下記までお願い致します。

(株)三重TLO 特許流通アドバイザー 黒渕達史 e-mail;kurobuchi-ad@adp.jiii.or.jp

Tel 059-231-9822 Fax 059-231-9743

*** 催し物行事案内 ***

21世紀の三重を拓くメディカルバレー構想
第3回 三重ゲノム創薬フォーラム
ゲノム創食と機能性食品

日 時：平成14年12月5日（木）
13:00～
場 所：三重大学遺伝子実験施設 1F 研修会議室
主 催：(株)三重ティーエルオー／三重大学地域共同研究センター／三重県／三重県産業支援センター
共 催：三重大学遺伝子実験施設／三重大学バイオベンチャークラブ
(入場無料)

基調講演

13:00～13:50 「DNA チップによる食品タンパク質の新機能探索」

座長 鎮西 康雄

講師 東京大学大学院 農学生命科学研究科
助教授 加藤 久典 氏

13:50～14:40 「アミノ酸医薬から total health care へ」

座長 田中 利男

講師 味の素株式会社 医薬研究所主席研究員
高原 義之 氏

14:50～15:30 「野菜まるごとサプリメント」

座長 古市 幸生

講師 常盤薬品工業株式会社 研究開発部
松本 聡 氏

15:30～16:00 「関節に特化した代替医療食品の開発」

座長 河野 廉

講師 イシダファーマシー株式会社
代表取締役 石田 剛 氏

16:00～16:40 「ゲノム、蛋白質解析と機能性食品」

座長 菅原 庸

講師 太陽化学株式会社 研究所 朱 政治 氏

問い合わせ先：三重大学医学部薬理学教室
田中 利男
TEL 059-232-1111 (内線 6343)

第4回先端医療技術研究会
『癌に対する免疫的治療の基礎と開発』
珠玖 洋教授

開催日時：平成14年12月12日（木）
18:30～20:00
場 所：三重大学医学部 臨床第2講義室

産学官研究交流フォーラム・オン・キャンパス2003

主 催：三重大学・地域共同研究センター、三重県、津市、(財)三重県産業支援センター、中勢北部サイエンスシティ誘致促進協議会、(株)三重ティーエルオー

後援(予定)

三重テレビ放送株式会社、NHK 津放送局、津ケーブルテレビ

中日新聞、朝日新聞、毎日新聞、伊勢新聞、日刊工業新聞、日経新聞

日 時：平成15年1月24日（金）
10時30分～19時

場 所：三重大学講堂(三翠ホール)

1. オープニングセレモニー 大ホール
13時15分～13時30分

2. 講演会 大ホール
13時30分～15時00分

講師 関口 房朗 氏

演題 「企業の心得、勝つ事が命！」

3. 技術交流ボックス 小ホール、ロビー
10時30分～17時00分

コアタイム 11時～12時、15時～16時

三重大学、高等教育機関、公設試験研究機関、県内企業等のポスター、展示物による研究室、研究内容の紹介、研究概要、研究開発成果、技術シーズ、組織紹介等

4. 交流セミナー 三翠ホールロビー

(1) 「中小企業の支援について(仮題)」

中部経済産業局(予定)

(2) 「わかりやすい(おもしろい)量子のお話」

妹尾允史 氏

* 交流会 生協第2食堂

17時30分 19時(有料)

三重TLO

〒514-8507 三重県津市上浜町1515
三重大学地域共同研究センター内
TEL : 059-231-9822 (059-231-9763)
Fax : 059-231-9829
E-mail : mie-tlo@zvtv.ne.jp
http : //www.mie-tlo.co.jp